

インタビュー-01

Jessica Findley

ジェシカ・フィンドレー

5月16日、東京で「Aeolian Ride (エオリアン・ライド)」という自転車アートイベントが開催された。代々木公園を出発し、原宿、渋谷を抜け、中目黒までを走るだけなのに、参加者のコスチュームがおもしろい。走り出すと風を受けてふんわりとふくらむ、ユーモアたっぷりの格好。このパフォーマンスの主宰者はアメリカのアーティスト、ジェシカ・フィンドレーさん。自転車と楽しいことが大好きな彼女に話を聞いてみた。

風でふくらむエオリアンはワールドワイドに出発中

cycle編集部 (以下C) エオリアン・ライド、とても愉快です。この企画はいつ、どうやって始めたの？

ジェシカ・フィンドレー (以下J) 2004年に、当時住んでいたニューヨークで始めたの。もともと自転車が好きで、ブルックリンやマンハッタンで街なかで乗ったり、大勢のサイクリストが自転車で道路を行進するクリティカルマスを参加したりしていました。それがきっかけで、一般の人が作り上げて観客も一般人、というパブリックアートをやりたくなって…。仕事はイラストレーターだけど、写真やアニメーションの作品も作っていて、中でもエオリア



エオリアン・ライドの主宰者、ジェシカ・フィンドレーさん。自転車はシクロクロス、ビーチクルーザー、3輪自転車の3台を所有。日本滞在時はママチャリを愛用していた。今後の開催情報はWEBで告知中。
<http://www.aeolian-ride.info/>

ン・ライドはライフワークです。

これまでニューヨークのほかサンフランシスコ、カリフォルニア、ロサンゼルスなどアメリカ各地で開催したあと、南アフリカのケープタウン、オーストラリアのメルボルン、イタリアのミラノへも行きました。このイベントは無料で、運営も現地でボランティアを募って行っているから、地元でのサポートが受けられる所に行くようにしています。今回、東京での開催が実現したのも同じ理由。東京ワンダーサイトのクリエイターとして2か月半、滞在制作をしていたの。

C ふくらむ衣装を着て走るアイデアはどこから？

J 自転車通勤をしているときに思いついたの。私のウィンドブレーカーが風でパタパタと音を鳴らしていて、いったいどんな形になっているんだろうって不思議に思ったのがきっかけ。エオリアンは、エイリアンじゃなくて、ギリシャ神話のアイオリスという神様の名前に由来しています。「風でつくられた」という意味があるの。

衣装は全部で3種類あって、風船 (Bubble)、うさぎ (Bunny)、涙 (Drop)。軽いナイロン素材でできていて、風でうまくふくらむように自分でデザインしたの。50着ほど作ったけど全部が私のハンドメイドよ！

C 東京でのエオリアン・ライドはどうでしたか？

J すばらしかったわ！今回、衣装は30着しか持ってこれなかったけど、70人も参加してくれたし。衣装を着た人5人と衣装のない人



東京でのエオリアン・ライドの様子。代々木公園内のサイクリングロードを走る。

5人で1チームになって、数チームに分かれて走ったから、安全に走り終えることができました。1番楽しかったのは、渋谷を走っているとき。交通量も人の数も多い渋谷を走らなくて難しいだろうなって私もみんなも思っていたけど、大勢の人が興味をもって見てくれて本当に楽しかった！

C 今後の予定は？

J もうすぐ実現するのが、子どもたちのための虹色のエオリアンの衣装！すてきでしょ。ドーナツや風船、魚の形がいいかなと思っているの。虹色バージョンは今年の9月にニューヨークのブルックリンでお披露目できそう。

あと、秋にもう一度日本で、それも大阪でのイベントが実現するかもしれません。いつかやってみたいのは、マーチングバンドと一緒にイベントをすること！

エオリアン・ライドのいいところは、自転車に乗る人も観客も、偶然通りかかった人も、みんなが一緒に楽しめること。エオリアンたちが自転車で走り抜けるだけで、見慣れた景色がガラッと変わってしまうもの。そして、世界中のサイクリストやアーティストに出会える喜びもある。イベントを通して文化の違いを感じられるのは、すばらしいと思う。私自身、旅が大好きだから、これからも世界のいろんな所でエオリアンとの出会いを作っていきたいです。
(杉/稲(訳))

インタビュー-02

John Powley

ジョン・パウリ

大阪の街で、サドルが背丈ほどの高さにある不思議な自転車を見かけたことはないだろうか。フレームを上下につなぎ合わせた個性あふれる自転車の持ち主は、ニュージーランド出身のジョン・パウリさん。なぜこんな自転車に乗っているのか、ナゾを解き明かすべく待ち合わせた朝公園に、ジョンさんは例の自転車に乗って颯爽と現れた。

二階建て自転車はハッピーバイク！

cycle編集部 (以下C) この自転車はどこで手に入れたの？

ジョン・パウリ (以下J) これはサーカスで働く友人が、ポロボロのフレームをつないでつくったんだ。アメリカ人の彼はこの自転車と一緒に各国を旅し、日本では僕の部屋に滞在していた。でも次に向かうヨーロッパへの自転車の送料があまりにも高かったの、僕にプレゼントしてくれたんだよ。

C 乗り降りはどうするの？

J 普通の自転車に乗るように、ペダルに片足を掛けて、ヒョイッとまたぐ。途中で停まるときは、壁や電柱に手足をつけて支えるよ。近くに何もないうときは…降りる！

C 危険ではないですか？

J どんな自転車も、危険かそうでないかは乗る人次第。僕の自転車は乗りこなすのが難しいぶん、常に周囲に注意を払ってる。それに目立つし、遠くまで見渡すことができるから、むしろ安全かもね。ちなみに日本では自転車の幅と長さの規制はあるけど、高さの規制はないんだ。

C へえ！では愛車のいいところ悪いところは？

J いいところは、この自転車に乗っていると、みんなが僕に笑顔で声をかけてくれること。会話のきっかけができるんだ。悪いところは、

さっき言ったように、運転に集中しなければならないこと。せっかく誰かが僕に手を振ってくれても、振り返せなくて残念なときがあるよ。

C いつも自転車でどこへ行くのですか？

J 音楽が好きだから、しょっちゅう日本橋やアメリカ村のレコード店に行く。去年はフェリーで四国へ渡り、1日に160kmも走ったんだ！みんな僕の自転車を見て驚いていたけど、応援してくれてうれしかったよ。

C ところで普通の自転車に興味はないの？

J もっと速く走れるロードバイクも持っているけど、走っていても誰も僕を気に留めてくれないから、ちょっと退屈。やっぱりみんなから好かれるこの自転車に乗っているときに、楽しくて幸せなんだ。

C つまり、ハッピーバイクってわけですね。

J その通り！
(足/稲(訳))



(上) 自製の自転車に乗るジョン・パウリさん。サドル位置は地面から約1.5mの高さ！
(左) 二階建て自転車は子どもにも大人気。子どもたちと競べると、その大きさは一目瞭然。

デッサン・細密着彩・基礎造形・デザイン基礎・パソコン基礎・グラフィックデザイン・編集・DTP・絵本・イラストレーション・絵画・写真・ZAKKA 染織・美術

生徒募集

この夏、別人になったるわ。

www.ozczonei.com

art & design
ozc school
大阪造形センター



展示募集

OZCギャラリー+カフェは、美術・デザインの展示から、音楽・映像・演劇・舞踏・落語・パフォーマンス・生活アート(雑貨etc.)・各種パーティなどに使用できる多用途空間です。場所は梅田のと真ん中。作品発表や交流の場にご活用ください。●使用料:500円〜13万円(使用形態による)●カフェではヘルシーな手づくりドリンクを！ぜひ一度おこし下さい。お問合せは、大阪造形センターまで。

〒530-0014 大阪市北区鶴野町1-1
tel. 06-6372-9781
e-mail: ozc@ozczonei.com